

## 令和 2 年度 学校総合評価

### 6 今年度の重点目標に対する総合評価

今年度は、5つの重点項目10指標のうち、目標に達成しなかった指標が2指標であった。昨年度は達成されていない項目が2指標であった。今年度も重点目標を設定する際に、昨年度の結果を十分に分析し方策等に反映させた。その結果、改善された指標は学習活動（基礎学力向上）、達成されなかった指標は、学習活動（専門教科）の2指標であった。他の8つの指標については、当初の目的をおおむね達成できた。

学習活動（専門教科）では、新型コロナ禍により農業クラブ関係の県大会、全国大会が中止となり、また校外ボランティアなども実施見送りとなり、そのような中で目標達成に近づくよう取り組んだが、目標達成には及ばなかった。しかし、生徒・教職員に各種検定の受検案内と参考図書を斡旋し、生徒の個に応じた指導を行うことで、生徒の資格取得への意識が向上し、2級造園施工管理技術検定を受検し、合格する生徒もいたことなどで、具体的方策の糸口が見えてきた。

昨年度達成しなかった学習活動（基礎学力向上）については、前年度までは達成目標を漢字検定・硬筆書写検定で上位の級を目指すことに置いていたが、本年度は農業技術検定や情報処理検定など幅広く2つ以上の資格検定を受検することに変更したところ、生徒個々の関心や能力に応じて自ら受検を希望するようになった。このことは、その分野における生徒の基礎学力の向上につながる事が十分に期待される。

一方、学習活動（生徒の授業への満足度）のうち、「授業は自分にとってプラスになっている」に肯定的に回答した生徒は93%であった。コロナ禍でグループ学習が制限される中、少人数クラスの利点を活かし、落ち着いた授業環境作りを目指して取り組んだ成果が現れた結果と思わる。

本校は、多様な生徒に対する指導対策として、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、巡回指導員など外部機関との連携を密にし、教職員を対象とした特別支援教育学習会を開催するなどして、情報交換を積極的に行うことで、教職員全体で取り組む体制作りを構築している。その効果が生徒指導や進路指導の重点項目の目標達成に寄与している。

他の項目については、今回の課題に対する達成度を今後も維持し個々の生徒にあった、より具体的な取組みが必要であると考え。これらのことから、今年度の総合評価は「B」とした。

### 7 次年度へ向けての課題と方策

- (1) 生徒の学習実態に合った個別指導を行い、生徒が学習に計画的・継続的に取り組む習慣を身につけさせることで学習への意欲を育む。
- (2) 授業改善を図り、生徒自らが達成感を得られるような授業の実践にさらに努める。
- (3) 専門教科（農業関係）の資格取得や大会入賞のための指導の充実・改善を図るとともに、地域と連携した農業教育を推進する。
- (4) 常識ある社会人を育成するため、地域の人々と積極的に触れあう機会を設けることで、ボランティア意識を高めるような活動を積極的に取り入れる。
- (5) 将来の社会的・職業的自立と進路希望実現率の維持向上のため、キャリア教育における指導内容の充実と改善に取り組むとともに、進路内定後の指導も強化する。
- (6) 関係機関との連携を深め、生徒の学校生活がより円滑になるとともに、将来の進路決定につながるようなキャリア支援を継続的に行う。

令和2年度 小矢部園芸高等学校アクションプラン -1-	
重点項目	学習活動
重点課題	基礎学力の向上と授業改善
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の基礎となる「読む力」・「書く力」・「計算する力」が必ずしも十分ではない生徒がみられる。</li> <li>・学力や学習意欲に差が広がりつつある。</li> <li>・目標をもって計画的・継続的に学習する習慣が身に付いていない生徒が多い。</li> <li>・普段の予習・復習、定期考査や各種検定に向けての家庭学習の取り組みにも個人差が大きい。</li> </ul>
	① 年間で二つ以上の資格検定を受検する。 60%以上
	② 生徒の授業への満足度 80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字能力検定、情報処理関連、農業クラブ関連の資格検定受検を呼びかける。</li> <li>・検定合格に向けて傾向を踏まえた指導をして合格を目指させる。</li> <li>・長期休業中に課題図書を出し、読書や感想文を書く機会を増やす。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に授業や学習についてのアンケートを実施し、その結果を授業に生かす。</li> <li>・全教員の互見授業をとおして学習教材の精選や指導方法の工夫に努める。</li> <li>・参観した授業の感想や意見を授業担当者に伝え、授業に生かす。</li> <li>・互見授業期間は保護者に授業を公開する。</li> </ul>
達 成 度	二つ以上の資格検定受検者 30 名（休学者を除く生徒の 65.2%） 学習アンケート回答（12 / 15 実施） <u>先生の説明はわかりやすい</u> （ほとんど当てはまる・当てはまることが多い・93%） <u>授業は自分にとってプラスになっている</u> （ほとんど当てはまる・当てはまることが多い・96%）
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>7月 日本語ワープロ検定 9名受検</li> <li>情報処理技能検定 6名受検</li> <li>漢字能力検定 8名受検</li> <li>造園技能士試験 6名受検</li> <li>8月 車両系建設機械（整地等）特別教育 6名受講</li> <li>9月 農業技術検定（農業機械）7名受検</li> <li>10月 危険物取扱者試験 1名受検</li> <li>11月 農業技術検定（農業簿記中級位）3名受検</li> <li>11月 造園技能士試験 7名受検</li> <li>造園施工管理士試験 1名受検</li> <li>12月 農業技術検定（ワープロ中級位）14名受検</li> <li>12月 農業技術検定（ワープロ上級位）5名受検</li> <li>12月 日本語ワープロ検定 3名受検</li> <li>情報処理技能検定 10名受検</li> <li>農業技術検定（農業簿記上級位）5名受検</li> <li>農業技術検定（生物工学中級位）12名受検</li> </ul> 受検を呼びかけ、授業での指導や個別指導を通して技能を向上させた。合格者に対してはさらに上位の級を目指すよう促し、指導した。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨時休校中、臨時休校課題を生徒に課した。Ⅰ期・Ⅱ期課題は生徒宅に郵送し、Ⅲ期課題は臨時登校日に配布した。</li> <li>・提出された課題は添削するなどして返却し、取り組みが不十分であった生徒については学校再開後、担任や教科担当者が指導した。</li> <li>・臨時休校課題に取り組んだことで、学校再開後の授業への理解度が深まったと考えられる。</li> <li>・例年は新入生も交えて農場での作業に取り組むが、今年度は臨時休校のため、生徒は取り組めなかった。育苗、播種、除草などの作業に農業科教員が取り組んで農場環境を整え、学校再開後、実習をスムーズに実施できた。</li> <li>・第1回互見授業は臨時休校のため実施できなかったが、第2回互見授業は11月に実施し、教員1人平均4回、授業を見学した。</li> <li>・互見授業週間中に、2年次研修を兼ねた授業懇談会を実施し、指導方法について意見を交換した。</li> </ul>
評 価	A <ul style="list-style-type: none"> <li>・各担当者の指導が功を奏し、意欲的に取り組み成果を上げた生徒が多かった。</li> <li>・造園施工管理士など、難関資格の合格者もいた。</li> </ul> B <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体としては授業態度も真面目で、課題等の提出状況もよい。</li> <li>・あまり意欲的でない生徒、理解に困難を抱えている生徒への指導を検討していかなければならない。</li> </ul>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資格については将来何の役に立つのかまで分かれば、生徒も関心を持ちやすいのではないかと。</li> <li>・授業や実習等では新しい物を取り入れて活用することで、生徒の意識付けができる。</li> </ul>
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字検定等は、一定の人数がいないと準会場実施ができないため、希望しながら受検できない生徒もいた。生徒数が少ない中、一定数を確保するにはどうしていくか検討の必要がある。</li> <li>・理解に困難を抱える生徒が増加することも考えられるので、支援の方法を検討する必要がある。</li> </ul>

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成しなかった D：達成しなかった）

**令和2年度 小矢部園芸高等学校アクションプラン -2-**

重点項目	学校生活・特別活動																						
重点課題	基本的な生活習慣の確立及びボランティア活動の推進																						
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間を守る、物を大切にす、服装を整えるなどの学校生活を営む上で最低限度必要なきまりに対して自分の尺度で判断し、基本的な生活習慣が確立されていないまま、曖昧に過ごしている生徒が少なからず見受けられる。これまでの継続した指導のおかげで、生徒は少しずつ理解し、特定の生徒を除けば遅刻などは微減しているが、遅刻を繰り返している特定の生徒が居る。また、挨拶などの礼儀作法がきちんとできる生徒が減少しており、今後も粘り強く継続して指導する必要がある。</li> <li>・地域と密着したボランティア活動として、本校の特色をいかした花プランター配布、社会福祉施設などへの雪吊り・雪囲い等の緑地管理ボランティアを行なっている。しかし、生徒の希望進路に依るところがあるとはいえず、最近では社会福祉施設での介護ボランティアなど福祉現場活動に携わる生徒はかなり少ない。</li> <li>・全校生徒で一斉に、継続して行っている「清掃美化活動」については、地域への貢献や奉仕の精神に関心を持たせる恒例行事として定着してきた。</li> </ul>																						
達成目標	① 年間遅刻回数	② ボランティア活動参加回数																					
	全生徒で延べ150回以下	一人あたり1.5回以上																					
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間を守り、挨拶が自然に交わせるような学校の雰囲気づくりに努める。</li> <li>・登校時早朝指導を年間を通して実施し、遅刻防止、挨拶や服装指導もおこなう。また、学期始めを中心に指導強化週間を設け、習慣付けを図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校生徒への積極的な呼びかけ、声かけと共にボランティア活動の掲示板を活用。</li> <li>・各種研修会への積極的参加。</li> <li>・地域に密着した環境美化整備活動の推進。</li> </ul>																					
達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>●総遅刻数 40回(①14②10③16)</li> <li>●全校生徒 46名</li> <li>●一人あたり 約0.87回</li> </ul> <table border="1"> <tr> <td>(過去データ)</td> <td>(H30)</td> <td>(R1)</td> </tr> <tr> <td>総遅刻数</td> <td>405回</td> <td>267回(12・24・231)</td> </tr> <tr> <td>全校生徒</td> <td>64名</td> <td>59名</td> </tr> <tr> <td>一人あたり</td> <td>約6.33回</td> <td>約4.52回</td> </tr> </table>	(過去データ)	(H30)	(R1)	総遅刻数	405回	267回(12・24・231)	全校生徒	64名	59名	一人あたり	約6.33回	約4.52回	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ボランティア活動参加者数 77名※(46名)</li> <li>●生徒一人あた活動参加数 約1.67回</li> </ul> <table border="1"> <tr> <td>(過去データ)</td> <td>(H30)</td> <td>(R1)</td> </tr> <tr> <td>参加数</td> <td>171名(62名)</td> <td>151名(56名)</td> </tr> <tr> <td>一人あたり</td> <td>約2.7回</td> <td>約2.6回</td> </tr> </table> <p>環境美化活動参加生徒数</p>	(過去データ)	(H30)	(R1)	参加数	171名(62名)	151名(56名)	一人あたり	約2.7回	約2.6回
(過去データ)	(H30)	(R1)																					
総遅刻数	405回	267回(12・24・231)																					
全校生徒	64名	59名																					
一人あたり	約6.33回	約4.52回																					
(過去データ)	(H30)	(R1)																					
参加数	171名(62名)	151名(56名)																					
一人あたり	約2.7回	約2.6回																					
具体的な取組状況	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 全学年朝学習を実施(担任指導)</li> <li>(2) 夏・秋のさわやか運動を通して校門指導を行い、遅刻防止の呼びかけ。</li> <li>(3) 遅刻を繰り返す生徒に対する個別指導の実施。</li> <li>(4) 年間を通じた遅刻・服装指導の実施。また、各学期ごと特別に登校指導週間を設け、遅刻防止に努める。</li> <li>(5) 朝学習に遅れた生徒に対する朝の挨拶運動実施。(学年指導)</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 年に数回小矢部市、砺波市の公共施設にプランターを配置・植栽。(4名×6=24名)</li> <li>(2) 小矢部市内サマーボランティアスクールへの参加。</li> <li>(3) 老人ホーム清楽園での祭りボランティアや雪つり・雪囲いボランティア活動への参加。樹木の誘引作業 (6名+専攻科)</li> <li>(4) 生徒会を中心とした、全校生徒をあげた地域の環境美化活動の実施。(47名)</li> <li>(5) 県中央植物園の合同剪定実習や個人庭園への剪定、雪吊り・雪囲いボランティアの実施。( )は延べ数</li> </ol>																					
評 価	A	A																					
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導措置が2年連続で0は良いことであるが、生徒が無気力になっているのでは心配である。</li> <li>・日頃のあいさつ指導など、専攻科生徒の協力も呼びかけ、大人からの声かけを求めてもよい。</li> </ul>																						
次年度へ向けての課題	<p>効果的と思われる朝学習、登校指導や挨拶運動の実施などを今後も継続して行い、粘り強く指導していきたい。</p> <p>また、繰り返す生徒など特定のメンタル面に理由がある生徒については、カウンセリング的な機会を多く設けるなど一考していきたい。</p> <p>清掃美化活動は天候に左右されるため、今年度は万全な日程で組んでいたが、上記の通りコロナ禍の影響が大きかった。しかし、プランターや樹木管理など園芸的作業は比較的实施しやすいこともあり、最小限度の活動ができた。それでも、ギリギリのラインでクリアできた。</p> <p>このことから、本校が長年取り組んできている園芸的な活動だけでも充分、一定のボランティア参加率があるので、今後は目標数値を上げるなどのステップアップも有りかもしれない。</p>																						

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成しなかった D:達成しなかった)

令和2年度 小矢部園芸高等学校アクションプラン -3-

重点項目	進路支援	
重点課題	進路意識の向上と進路実現に必要な能力の育成	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来の進路に対する意識が漠然としており、具体的な将来像を描いたり、目標を設定することに困難を感じる生徒がいる。</li> <li>・基礎学力の定着が不十分な生徒や基本的な学習習慣が確立していないため、進路実現に必要な基礎学力や技能が身に付きにくい生徒がいる。</li> <li>・コミュニケーション能力等、社会人としての必要な基本的能力が不十分である。</li> </ul>	
達成目標	① 個人面接の実施回数 * 生徒一人あたりの年間の回数とする。	② 進路希望実現率 * 対象生徒は進学及び就職を希望する者とする。
	1・2年生 5回以上 3年生 10回以上	100%
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別面接の機会を増やし進路意識の高揚を図ると共に、望ましい人生観や職業観を身に付けさせる。</li> <li>・日頃の授業を大切にし、基本的な礼儀の定着と、基礎学力の向上に努めさせ、適切な進路の選択を支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路特別講座、企業訪問、学校見学を通し、具体的に進路先について考えさせる。</li> <li>・個別指導（面接、小論文、作文指導等）を通して、進路実現に向けた適切な指導を行う。</li> <li>・就職支援機関・保護者との連携を図る。</li> </ul>
達成度	100%	100%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別面接週間 1・2・3年次（6月、10月）</li> <li>・校長による個人面談 3年次(6月) 2年次(11月) 1年次(1月)</li> <li>・教頭による個人面談 3年次(6月)</li> <li>・進路指導主事による面接 3年次(4~5月(6月、7月に代替実施)) 2年次(11月) 1年次(12月)</li> <li>・校運メンバーによる面接 3年次(9/2~11、9/23~29) 2年次(1/26、2/2)</li> <li>・定期考査後等の個人面接 1・2・3年次(6・9・10・12・1月)</li> <li>・専攻科生徒による面接指導 3年次(7/30)</li> <li>・進路説明・進路面接・作文指導等 3年次(4/21、6/16、23、7/21~31、8/19~25、9/23~29) 2年次(11/10、12/8、1/26、2/2・※3/4) 下線は重複</li> <li>・キャリア支援等の講座 3年次(6/30、10/13、※2/22・24・25) ※は予定 2年次(6/30、10/13、11/10、12/8、1/19、※3/4) 1年次(6/30、10/13、※3/4)</li> <li>・高校生就職ガイダンス 3年次・2年次</li> <li>・就職希望者職場見学 3年次(1人3~4社)(教員企業訪問30社 メール又はFAXで実施)</li> <li>・進学希望者学校見学 3年次(1人2~3校)</li> <li>・修学旅行 2年次 校外学習に代替(11/11) 黒部ダム・アルペンルート周辺</li> <li>・施設訪問 1年次(11/11 富山短期大学、ますのすし本舗 源、県中央植物園)</li> </ul>	
斜体はコロナ禍により中止した取組み		
※は今後実施予定		
評 価	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍のため時間が限られる中、担任をはじめ管理職、校務運営委員会メンバーなどの有意義な面接指導が、進路意識や職業観の育成につながった。</li> <li>・授業や進路学習を通して基礎学力や一般常識を身に付けることができた。ほとんどの生徒は積極的に取り組み目標を達成した。</li> </ul>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍のためいくつかの重要な計画が実施不可能となったが、進路希望達成のため、教員だけでなく、保護者、就職支援アドバイザー等の協力を得ることができた。また、進路がなかなか決められない生徒に対しても個別に配慮できた。</li> <li>・就職支援機関・保護者との連携を図ることができた。</li> <li>・企業の採用担当者や上級学校の募集担当者と連絡を密にしたことが進路希望実現に有効であった。</li> </ul>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響で求人数が減っている中、100%の達成は評価できる。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度もコロナの状況がどうなるかわからないので進路意識の形成を早めに行っていきたいと考えている。また、基本的な生活習慣の確立が進路にも大きく影響することを重視したい。</li> </ul>	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成しなかった D：達成しなかった)

令和3年度 小矢部園芸高等学校アクションプラン -4-					
重点項目	学校生活				
重点課題	基本的な生活習慣・教育相談				
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭環境や友人関係などさまざまな悩みを抱えていることで、身体の不調や心の不安定を訴えたり、スマートフォンやゲームの長時間使用などで基本的な生活習慣が乱れていたりする生徒が多く見受けられる。</li> <li>専門家の支援を要する生徒が複数いる一方で全教職員で指導支援の体制がまだ十分に確立されていない。</li> </ul>				
達成目標	<p>①生徒保健委員会活動などを通して、生徒の健康や環境美化意識の向上を図る。</p> <p>②カウンセラーや特別支援巡回指導員の面談指導を充実させることで、生徒の心の成長を図る。</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活調査を実施し、改善が必要な生徒に保健指導を行い基本的な生活習慣を整える。また保健だよりの定期発行や掲示物等で健康への関心や知識の向上を図る。年10回以上たより等の発行（保護者に向けたよりを含む）</li> <li>スクールカウンセラーや巡回指導員による面談の実施後に、当該生徒、保護者等に対して、満足度をインタビュー形式で調査する。</li> </ul> <p style="text-align: center;">満足度70%以上</p>				
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>機会をとらえて、人間関係づくり、身だしなみや生活習慣など心身に関わるテーマで、グループ指導や個別指導を実施する。</li> <li>健康に関する情報を発信し、生徒の基本的な生活習慣の確立を目指すとともに保護者への理解と協力を得る。</li> <li>スクールカウンセラーや特別支援巡回指導員の助言を参考に、教職員と家庭の連携を深め、適切な支援を行う。</li> <li>職員会議後定期的に教育相談連絡会（年6回程度）を実施し、全職員の共通理解を図る。</li> </ul>				
達 成 度	<p style="text-align: center;">100%（10回以上実施）</p> <p style="text-align: center;">満足度 90%</p>				
具体的な取組状況	<p>◎定期的に生徒保健委員会を実施し、活動を充実させ、健康に関する生徒の意識を高める。</p> <p><b>【生徒保健委員会の活動内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>健康診断時の補助</li> <li>学校行事における救護係</li> <li>環境美化活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>清掃点検表の貼り替えと点検</li> <li>トイレの環境整備</li> </ul> </li> <li>コロナ予防に関する活動（教室の換気、うがい、手洗いの励行、校内放送での呼びかけ）</li> <li>毎月廊下の壁面作り、ポスター作り</li> </ul> <p>(1) 教育相談連絡会（職員） 4月 7月 9月 11月 1月 生徒の様子や指導上の問題点などについて協議</p> <p>(2) スクールカウンセラーによる教育相談 スクールカウンセラー 臨床心理士 山本隆紫氏 生徒20名 保護者1名（実施21名延べ）</p> <p>(3) 巡回指導員 飯田融氏による面談指導 生徒5名 保護者2名 担任4名 授業参観、講座など4回（延べ15名）</p> <p>(4) 救急救命講座（1年次14名）小矢部消防署</p>				
評 価	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">A</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な委員会活動は、定着した。健康に対するも同様に、意識が向上し、自主的な委員会活動になってきた。</li> </ul> </td> <td style="width: 50%; text-align: center;">A</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>教育相談連絡会を継続して開会し、職員の共通理解が図れた。</li> <li>特別支援を必要とする生徒の支援のために、スクールカウンセラーや巡回指導員と連携が図れ、具体的な助言や指導を受けることができた。</li> </ul> </td> </tr> </table>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な委員会活動は、定着した。健康に対するも同様に、意識が向上し、自主的な委員会活動になってきた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育相談連絡会を継続して開会し、職員の共通理解が図れた。</li> <li>特別支援を必要とする生徒の支援のために、スクールカウンセラーや巡回指導員と連携が図れ、具体的な助言や指導を受けることができた。</li> </ul>
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な委員会活動は、定着した。健康に対するも同様に、意識が向上し、自主的な委員会活動になってきた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育相談連絡会を継続して開会し、職員の共通理解が図れた。</li> <li>特別支援を必要とする生徒の支援のために、スクールカウンセラーや巡回指導員と連携が図れ、具体的な助言や指導を受けることができた。</li> </ul>		
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーションを取ることが難しい生徒が卒業までに改善しているのは評価できる。</li> <li>引き続き粘り強い指導をお願いしたい。</li> </ul>				
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒保健委員会活動を通して、生徒の健康や環境美化意識の向上を図る。</li> <li>カウンセラーや特別支援員の意見を生かし、生徒について様々な情報の把握と共有化を図る。そして、個々に応じた適切な指導のための研修を充実させ、生徒の心の成長に役立てる。</li> </ul>				

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成しなかった D：達成しなかった）

令和2年度 小矢部園芸高等学校アクションプラン -5-

重点項目	学習活動（専門教科）	
重点課題	農業学習の意欲向上	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資格・検定に興味や関心を持つ生徒が減少傾向にある。</li> <li>・農業クラブ農業技術検定、危険物取扱者試験、造園技能士（3級）等の資格取得の取り組みと授業との連携が希薄である。</li> <li>・農業教科に興味や関心の低い生徒がいる。</li> </ul>	
達成目標	①農業・園芸関連の資格や検定の受検者数と取得資格数の増加と合格率の向上。	②県内委託実習（インターンシップ）や校外での農業に関する体験者（販売実習や造園ボランティアなど）の増加。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危険物資格取得 延べ5名以上</li> <li>・造園技能士 3名以上</li> <li>・農業クラブ技術検定 延べ30名以上</li> <li>・農業クラブ県大会入賞 3名以上</li> <li>・農業クラブ全国大会入賞 3名以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内委託実習 5名以上</li> <li>・就農青年育成懇談会 10名以上</li> <li>・中学校、商店街等の販売実習 5回以上</li> <li>・県農教振本部事業 10名以上</li> <li>・その他ボランティア活動 延べ100名以上</li> </ul>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資格取得の必要性を説き、受検意欲を高め、受検者を増やす。</li> <li>・年間の資格・検定取得について示し、計画を立て学習させる。</li> <li>・教科内実習・農業クラブ活動・補習等と連動させて計画的に指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科内実習や面談をとおして生徒及び保護者に積極的に参加するよう促す。</li> <li>・インターンシップの実施時期の検討や新しい受け入れ先を開拓し確保する。</li> <li>・農業体験ができる環境を整え、参加する選択肢を増やす。</li> </ul>
達 成 度	60%	70%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危険物資格習得 0名</li> <li>・造園技能士 3名</li> <li>（前期中止、後期6名受験予定）</li> <li>・農業クラブ技術検定 22名</li> <li>・農業クラブ県大会入賞 0名</li> <li>・農業クラブ全国大会入賞 0名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内委託実習 0名</li> <li>・就農青年育成懇談会 10名</li> <li>・中学校、商店街等の販売実習 0回</li> <li>・県農教振本部事業 7名</li> <li>・その他ボランティア活動延べ 約70名</li> </ul>
斜体はコロナ禍により中止した取り組み	◎就農意欲を高めるため「地域の農業を学ぶバスツアー」に参加した。また、就農育成懇談会で本校OBの農家を見学先に選定した。これらのことはテレビ、新聞等で放映され注目を浴びた。	
※は今後実施予定	◎年度当初に、生徒・教職員に各種検定の受験案内と参考図書の斡旋を実施した。また、本科に関しては造園技能士や農業クラブ技術検定や情報処理検定のみ授業内で取り組まれた。	
評 価	B <ul style="list-style-type: none"> <li>・達成目標の5割程度の結果に終わった。指導は個別指導が大半で日本農業技術検定や危険物取扱者試験等は授業や補習等で取り組める環境にしたい。授業や補習体制の構築など各分掌との連携をする必要がある。</li> </ul>	B <ul style="list-style-type: none"> <li>・販売実習やボランティア活動に参加する生徒は例年に比べると偏りは改善されている。全生徒が参加できるよう、計画を平準化する必要がある。また、インターンシップへの参加は全員参加できる体制を整える必要があるが、コロナ渦で中止となった。</li> </ul>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の農業への関心を高めるために、育成ゲームなども活用する方法もあるのではないかな。</li> <li>・本科と専攻科の生徒と一緒に学ぶ機会を設けることで、相互に良い刺激を与え合うことになる。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資格等には高額な受験料を必要とする。生徒の負担の軽減のため、受験料の補助を検討していきたい。また、多く取得した生徒を表彰し取得意欲を高めたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が魅力と感じる行事を企画していきたい。先進的な農業法人、施設設備を見学し、地域の農業を学ぶためにも継続して参加していきたい。</li> </ul>

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成しなかった D：達成しなかった）